

2015年8月発行

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>
発行:安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



温室びわの現品査定を行う関係者



検討中の出荷容器の一例



収穫を待つ温室びわ



栽培講習会を兼ねたほ場巡回

**温室びわ産地のさらなる
発展を目指して!**

温室びわは、房州びわの先がけとして生産・販売されています。JA安房温室びわ組合は、昨年、設立30周年を迎え、ブランド力を維持発展するための努力を続けています。当事務所では、生産者や関係機関と協力し、多くの課題解決に取り組んでいます。昨年からは長年の懸案であった出荷容器の改良に取り組んでおり、本年は、市場へ輸送試験を実施し好評を得ました。今後は検討を重ね、来年以降の導入が目標です。

さらに将来の産地の核となる若い担い手の育成が急務です。産地の将来像を共有し、技術を磨き、数多くの経験を積み重ねる機会を多く設けて、産地ブランドが維持発展できるように助言・指導を進めていきたいと考えています。

晩生エダマメの 病害虫防除

エダマメの栽培で重要になるのはハスモンヨトウとカメムシ類の防除です。

ハスモンヨトウは葉を食害し、多発すると生育に大きな影響を与えます。8月から11月に発生し、そのピークは8月下旬と9月下旬にあります。

幼虫が大きくなると農薬が効きにくくなるので、早期の防除が重要です。前年に大きな被害を受けたほ場では、8月中旬から下旬に農薬を予防的に散布することが有効です。

被害を与える主なカメムシ類は緑色のミナミアオカメムシ、極めて細長く褐色のホソヘリカメムシ、小型で半球型、褐色のマルカメムシなどがいます。7月から8月に多く発生します。稲刈りの時期になると水田から移動してくるので注意が必要です。

莢が形成される時期に吸汁

されると莢が落下します。豆が肥大する時期に吸汁されると、歪んだ豆や茶色い豆となり、品質が低下します。

品質向上のため、カメムシ類の防除は3回行います。開花終期（8月下旬）、莢の肥大期（9月中旬）と収穫10日前（10月中旬）に行いましょう。葉だけでなく、莢にもよくかかるように散布することがポイントです。

害虫の発生初期の防除を心がけ、安定生産を目指しましょう。

詳細等は当事務所改良普及課にお問い合わせください。



ミナミアオカメムシ

被覆して潮風害を 防ぎましょう！

昨年10月、台風18号が関東地方へ上陸し、キンセンカや食用ナバナをはじめ多くの露地作物が潮風害を受け、産地にとって大打撃となりました。その中で、キンセンカ産地の白浜地区では、被覆資材のべたがけや、ほ場周辺に設置された防風ネットにより、台風被害を免れた事例がありました。なので御紹介します。



べたがけ被覆による潮風害軽減ほ場
左：被覆なし 右：被覆あり

（事例1）べたがけ被覆で防ぐ
台風が来る前に、べたがけ資材や2重にした防風ネットを覆うように苗を被覆し、Uピンで固定します。余裕があれば、資材の周囲を地面に埋め込むと安心です。被覆をしなかった部分は、苗が萎れてしまいました。べたがけ被覆した部分は、潮風害を免れることができました。

（事例2）防風ネットで防ぐ

ほ場周辺に防風ネットを設置しても潮風害を軽減できません。既に設置してある場合は、台風前にネットの破れや支柱のぐらつき等を点検修理してください。毎年潮風害を受けるほ場では、設置を検討してください。なお、ネットによる防風効果の期待できる範囲は、風下側でネットの高さの10倍程度です。

詳細は当事務所改良普及課へお問い合わせください。

果樹類の白紋羽病対策

1 本病の特徴

本病は、土壤中に存在する子の菌類の一種です。病原菌は普遍的に土壤中に存在しており、枝や根などの有機物を栄養源として増殖します。

寄主範囲は極めて広く、ビワやナシ、カキ、クリ、モモ、ブドウなどの果樹類やサクラ、ケヤキなどの花木類に幅広く寄生します。

根の一部に病原菌が付着した程度では、地上部に外見上変化は見られませんが、数年経過すると、新梢の伸びが徐々に悪くなります。

更に数年経過すると、新梢の発生が減り、展開する葉が小さく、最終的には枯死します。

また、発病した跡地に後述の対策を行わないまま新たな苗木を定植した場合、菌密度が高いため、数年後には、枯

死に至る可能性があります。

2 対策

本病は土壤中に普遍的に存在する菌であり、根絶は難しいため、早期発見・早期治療が重要です。

新梢の伸びが悪い等の症状が見られ、休眠期に根を掘り上げて白い菌糸が確認された場合は、下表にある薬剤等で防除を実施してください。

また、改植をする場合には、抜根をし、土壤消毒を必ず実施してください。



白紋羽病に感染した根の様子

表 白紋羽病に登録のある主な薬剤（平成27年6月1日現在の登録内容）

農薬名	作物名	希釈倍率・使用量 (散布液量)	使用時期	使用方法	使用回数
フロンサイド SC	びわ	500倍 (50~100リットル/樹)	収穫後～ 開花前まで	土壤 灌注	1回
	なし	または 1000倍 (100~200リットル/樹)	収穫30日 前まで		1回
	ぶどう		収穫21日 前まで		1回
フジワン粒剤	びわ	3kg/樹	開花前	土壤 混和	1回
	なし	3~5kg/樹	落花直後 まで		2回 以内
	ぶどう	3kg/樹	萌芽期まで		1回

**安房地域の
若手農業者を紹介**

鴨川市 川名一将さん

今回は、鴨川市成川で水稲経営を行っている川名一将さんを御紹介します。

川名さんは現在就農10年目で、家族と共に「ふさおとめ」「ふさこがね」「コシヒカリ」「ミルキーサマー」を約15ha栽培し、減化学肥料・減農薬栽培である、ちばエコ栽培にも取り組んでいます。

秋には生わらをすき込むほか、米ぬかを散布し、籾殻をくん炭にしてほ場に戻すなど、稲から出たものを稲のために循環させ、良食味米生産にこだわっています。

地域の担い手が高齢化する中、徐々に水稲の栽培面積が増えていきます。

規模拡大に伴い、畦畔の草刈り作業の負担が増え、水不足になる田があるなど米作り

には苦勞も多いですが、常に稲を観察し、消費者に喜ばれる「長狭米」を生産しています。

また、JA安房鴨川農地受託者協議会への加入や、鴨川市総合交流ターミナル・みんなみの里の理事として、地域の農業振興にも積極的に関わっています。

鴨川市の農業を支える担い手として、今後より一層の活躍を期待しています。



川名一将さん

いちじくいきいきセミナーの
参加者を募集します！

今年度、いちじくの栽培技術を中心に学ぶセミナーを開催いたします。枝の誘引やせん定法など1年を通じた研修会です。

本格的にいちじく栽培に取組みたい方、取組み始めてもない方、一緒に学んでみませんか。参加者は随時募集していますのでお問い合わせください。

【問い合わせ先】

安房農業事務所改良普及課
☎047012218132



いちじくの栽培風景

『パートさんが「明るく
楽しく仕事ができる職場
環境づくり』(仮称)
研修会の開催のお知らせ

(一社) 南房総農業支援センターと事務所では、農業経営者の方々を対象に研修会を9月に計画しています。パートさん等へのモチベーションの上げ方などについて、事例を交えながら一緒に考えてみませんか。

詳細は、ホームページでお知らせいたします。

農地を貸したい人募集中です

「農地中間管理機構」は、農地を借り受けて、農地を借りた人を探して貸し付ける、新たな公的機関です。

機構では今、貸していただける農地を募集しています。詳細は、(公社)千葉県園芸協会(電話043122313011)又は各市町農政担当課までお問い合わせください。